

平成29年度 校内研究

山梨市立笛川中学校

1. 学校課題

本校は山間部に位置するため豊かな自然に恵まれており、素朴で素直な生徒が多い。広範囲の学区によるスクールバスでの通学などといった活動時間の制約の中で、学習活動をはじめ、学校行事や生徒会活動、部活動などに対して意欲的に取り組んでいる。また、家庭や地域社会とのつながりも密接で、生徒指導上の問題も少なく、望ましい教育環境である。しかし、その一方で、学級や学年・学校といった集団の一員として、積極的に集団の向上のために働きかけ、努力する点についてやや物足りない部分もある。また、指示やアドバイスを素直に受け入れ、生活を向上させていく柔軟性はあるが、主体的に自らの課題を発見しそれを粘り強く追究したり、自分の考えを発表し、表現したりすることが苦手な生徒が多い。

過去の研究の中でもこの課題についての取り組みは重ねられており、一定の成果が上がってきている。しかし、生徒は一人一人違った個性をもっており、それらを伸ばし、主体的に学習に取り組みせ、さらなる「学力向上」に資するためにも指導内容や方法も状況に応じて工夫する必要がある。

2. 研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～ 効果的な学びの過程の実現を目指して ～

3. 主題設定の理由

平成26年11月、中央教育審議会に対し、文部科学大臣が「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を発した。この諮問に対して、平成27年8月に、教育課程企画特別部会において答申（案）が『論点整理』として出された。それによると、次期学習指導要領の視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということである。つまり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関するもののすべてを、いかに総合的に育てていくか、ということである。急速な少子高齢化、グローバル化そして情報化など、将来の変化を予測することが困難な時代を前に子供たちには、ただ単に知識の蓄積に終始せず、学んだ知識を駆使し答えを協働し導きだしていく力が必要とされているのではないだろうか。

我々の普段の授業においても、講義型授業に偏重せず、指導・発信型の授業スタイルを工夫することで子供たちの理解を深め、将来必要とされる力が身に付くと考える。このような観点から、授業において効果的な学びの過程の実現を目指し、習得・活用・探究という学習プロセスを重視することで主体的に学習に取り組む生徒を育成できると考え本主題を設定した。本年度の研究は、今までの研究の成果と課題を踏まえ、各教科において生徒の学習が能動的になる効果的な授業の設計と実践を通して、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指し、進めていきたい。

4. 研究の内容と具体的方法

(1) 効果的な学びの過程を重視した学習活動

- 主体的・対話的で深い学びを意識した継続的な授業実践（一人一実践授業の提供）
- ICT 機器を使った授業実践・理論学習
- 特別の教科道徳

(2) 言語活動の充実

- 効果的に新聞を活用した実践（NIE）
- 日常的な取組（ライフ指導、学活、各教科指導等）

(3) 望ましい学習集団づくり

- Q-Uの分析と結果を活用した取組
- 保護者や地域との連携（家庭学習他）

5. 研究計画

H29年度 年間校内研修計画

研究主任 三枝 洋介

回	研究会予定日	実施研究計画	T・C 要請
1	4月 5日(火)	昨年度の研究、今年度の研究について	
2	4月12日(水)	今年度の「研究主題・副題」等について	
3	4月19日(水)	今年度の「研究主題・副題」等の決定	
4	4月26日(水)	部会日（道徳・ICT・NIE）	
5月15日～19日 第1回 Q-U 実施			
5	5月17日(水)	理論学習会（K-13法）	○
6月～7月 一人一実践			
6	6月28日(水)	Q-U 結果分析（学年部会）	
7	7月 5日(水)	Q-U 結果報告（全体会）	
8	8月18日(金)	理論学習会（NIE）	○
9	9月13日(水)	理論学習会（ICT）	○
10	9月27日(水)	予備日	
10月2日～6日 第2回 Q-U 実施			
11	10月11日(水)	予備日	
12	10月18日(水)	授業案検討	
13	10月25日(水)	Q-U 結果分析（学年部会）	
11月～12月 一人一実践			
14	11月 8日(水)	研究授業（ICT or NIE）	○
15	11月15日(水)	Q-U 結果報告（全体会）	
16	12月 6日(水)	授業案検討	
17	1月24日(水)	研究授業（ICT or NIE）	
18	1月31日(水)	予備日	
19	2月21日(水)	今年度の研究のまとめ、 来年度の研究の方向性について	
20	2月28日(水)	研究紀要について	
21	3月 7日(水)	研究紀要について	